

No. 30

2012 - 5 - 28
日本蜘蛛学会

訃報

本学会の名誉会員で会長や評議員を歴任されておられました関口晃一先生が本年2月1日にご逝去されました。告別式は2月7日に埼玉県久喜市にある銀杏ホールで執り行われました。



ジウム2

上記の時刻および内容は、変更されることがあります。

【2】会場 霞城セントラル3階 山形市保健センター大会議室
〒990-0828 山形市城南町一丁目1番1号（山形駅西口隣接）

【3】参加費用

大会費 一般：4,000円 学生：2,000円
懇親会費 一般：5,000円 学生：3,000円

【4】問い合わせ先

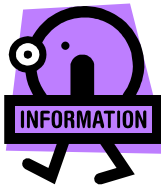
〒990-0826 山形市霞城町1番8号 山形県立博物館

日本蜘蛛学会第44回大会事務局 吉田 哉
電話 023-645-1111

電子メール：yoshidahaji@pref.yamagata.jp

なお、詳細につきましては学会のホームページでもご案内いたしております。

<http://www.arachnology.jp/meeting.html>
?1



インフォメーション

日本蜘蛛学会第44回大会(2012年度)のご案内

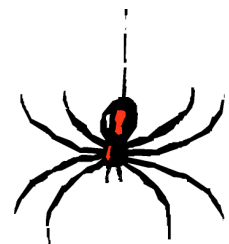
会員の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。2012年度の日本蜘蛛学会大会を下記の要領で開催いたします。奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。なお、会員の皆様に改めてご案内を郵送します。

【1】日程 2012年8月25日(土)・26日(日)

[役員会を24日(金)に開催]

・8月25日(土)10:00～ 一般講演,ポスター発表,シンポジウム1,総会

・8月26日(日)10:00～ 一般講演,シンポ



会長就任のごあいさつ

宮下 直

私は今まであまり「長」と名のつくものに縁がありませんでした。子供のころの班長はともかく、確かな記憶があるものは、日本蜘蛛学会の編集委員長と日本生態学会の学会賞選考委員長くらいです。長がつくものには、何やら不必要に厳めしく、古めかしく、あるいは退屈なイメージを昔からもっていました。一方、「代表」は研究プロジェクトを始め、何度も経験しています。代表の方が、何となくモダンで民主的で自由が利くイメージがします。ネーミングは学会長であっても、徒弟関係などのしがらみのない私は、学会代表としてのスタンスで行きたいと思います。

私が日本蜘蛛学会に入会したのは1990年頃だと記憶しています。既に年齢も30前後で、この学会にしてはかなり晩生の部類だと思います。何故かといえば、根っからのクモ好きではなかったからです。でも昔から生き物は半端なく好きでした。特に、蝶に関しては一家言あります。物心ついたころから父親の影響で網を持って年中山に行っていました。小学校低学年の頃には、図鑑で日本産蝶類全種を暗記し、多くの種の食草も知っていました。植物の名は蝶の食草から覚えたともいえます。途中から父や兄よりも詳しくなり、彼らが野外でときどき行う「誤同定」を何度も正したことを覚えています。その後、高校からは生物部の顧問の先生の影響でトンボも始めました。大学では、先輩の影響で鳥や樹木にもはまりました。鳥は250種以上見ましたし、温帯林の樹木ならほとんど全ての種が分かります。大学の後半にはシダやイネ科も結構覚えましたが、今はかなり忘れ

てしまいました。クモに関心をもったのはその頃です。ただ、クモは「やみくも」に覚えようとは思いませんでした。関心をもったきっかけが、大学院での研究テーマを探していたからです。特に、網を張るクモが面白そうだと直感しました。自らが創りだした造形物を使って餌をとる生物は他にほとんどいません。しっかり調べれば、どんな餌をどれだけ食べているのかもわかります。それを網の形や張る場所、さらに生活史と関係づけて調べたら、面白そうなことが分かるに違いない、そう思ったのです。結果は大当たり、とは言えないまでも、ますます面白いことを見つけれられたと思っています。念のため付け加えておくと、今では野外で網を張っている造網性クモはだいたいすぐに判別できます。平均的なクモ屋のレベルには達していると思います。

今はクモの研究を片手間にしかやれていません。生物多様性を広く研究する立場に置かれていることが最大の理由です。全国あるいはアジアスケールでどのように生物多様性や生態系が劣化しているかを評価・予測し、それを食い止めるための政策提言をすることが最終的な目標です。数年前にはそんな仕事をするとは夢にも思いませんでした。お陰でこの年になっても刺激のある毎日で、よく目から鱗が落ちます。自然科学系はもちろん、社会科学系の研究者や行政の人たちとも様々な議論をすることは、視野が広がるだけでなく、自分の果たすべき役割を再認識することに役立っています。こう書くと、「クモはどうした」と言われるかもしれませんが、でもご安心ください。自分ももっとも学問的に通じている研究材料はクモであることに何ら変わりありません。今後クモの研究をやめることはないでしょう。その証拠に、今もクモの投稿論文を修正中ですし、今年から

学生と農地のクモについての新しい研究に取り組みます。時間が無い、は「やる気がない」の言い訳にすぎません。

ところで、一般に分類群単位の学会(俗にいう材料学会)は、いろんな意味で古い体質が残っています。時代遅れのしきたりを重んじたり、高名な先生の退屈で落ちのこない話も有り難く拝聴したり、といった類のもんです。これは学会に限らず、風通しの悪い社会組織(裏も表も含めて)ではどこでも見られる現象です。蜘蛛学会でもそうした面が少なからずありましたが、最近では、しがらみのない若手の大会参加や学会発表が増えてずいぶん様変わりしました。昨年、蜘蛛学会将来計画ワーキンググループにより、学会の現状やあり方についてのアンケート調査が行われました。学会員の半数から解答があり、その大多数が現在の大会講演などに「ほぼ満足」ないしは「満足」しているということでした。これは上記の「様変わり」が肯定的に受け取られている証拠です。私は学会長として、この潮流を止めることなく、更なる学会の発展につなげるよう微力ながら努力していきたいと思えます。月並みですが、プロの研究者もアマチュア研究者も満足できる学会運営を心がけると同時に、新たな相乗効果が生まれるような機運を盛り上げていきたいと思えます。具体策の一つとして、クモ類の増加や衰退傾向を科学的な評価に基づいて学会の内外にアピールすることが考えられます。いま、私たちは鳥類の記録(100地点以上)や長野・静岡・山梨県の蝶類記録(約8万件)をもとに、国土スケールでの解析にとりかかっています。鳥類では、里山などの景観のモザイク性が種多様性にどのような影響を与えているのか、また個々の種が景観構造にどのように応答しているかを評価します。蝶類では、過去50年間のデー

タがあるので、過去の土地利用や農業形態の情報を使って、いつ・どのような種が・なぜ衰退したかを推定します。こうした解析を発展させることで、多様性のホットスポットの推定や、将来の温暖化や土地利用改変のシナリオに基づく予測が可能になります。クモ類では、鳥や蝶のような充実したデータはありませんが、それでもかなりの記録の蓄積があります。新海明さんと谷川明男さんを中心に、県別リストがデータベースになっていますが、それを点データ(緯度経度)に落とす作業が必要です。それができれば、採集者や採集地点等の偏りがあっても、最近の統計解析の技術の向上や地理情報の充実からすれば、想像以上の結果が得られると思います。また、解析により得られた結果は、フィードバックの効果をもたらします。つまり、地方のアマチュア研究者が、今後どこで・どのような調査を行えば、より実りのあるアウトプットが得られるかについての重要な示唆が得られることでしょう。こうしたプロとアマチュアの相乗効果により、学会に共通の目的やモチベーションが生まれるはずですが、もちろん、一連の作業を全てボランティアで賄うのは限界がありますが、資金の算段はプロの研究者がすればよいことです。

日本蜘蛛学会を将来に向けてどのように発展させるかは、多くの学会員の創造的なご意見や献身的なご協力が不可欠です。過去に捉われず、されど過去の有益な情報はうまく使いつつ、そして広く社会のニーズも的確に把握しながら柔軟に物事を進めていくことこそが、構想を具現化させる道であると信じています。皆さん是非よろしくお願いいたします。





同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容，採集会や講演会（総会・例会）の日程などを紹介する．興味を持たれた方は入会したり，行事に参加されてはいかがでしょうか．

関西クモ研究会（会長：田中穂積）
会報「くものいと」を年 2 回発行．採集会・研究会例会などを年数回実施．

くものいと 46 号（2011.10.28 発行）
内容は遊絲 29 号参照

採集会
7月 27 日（金）～29 日（日）4 同好会合同合
宿 岐阜県飛騨地方
9月 22 日（休） 京都市宝ヶ池にて

例会は，2012 年 12 月 16 日（日）あるいは
23 日 13:00 より四天王寺高校で実施の予定．



関西クモ研究会 2011 年度例会

入会申し込み

〒567 - 8502 茨木市西安威 2 - 1 - 15
追手門学院大学生物学研究室内
関西クモ研究会 Tel 0726 - 41 - 9550
（加村研）Fax 0726 - 43 - 9432（大学教務課）
会費 年 1000 円

三重クモ談話会（会長：橋本理市）
会報「しのびぐも」を年 1 回発行．採集会・合宿・例会などを年数回実施．

しのびぐも 39 号（現在作成中）

採集会

6月 24 日（日） 度会郡南伊勢町古和浦
7月 27 日（金）～29 日（日）4 同好会合同合
宿 岐阜県飛騨地方
9月 9 日（日） 北牟婁郡紀北町
10月 20 日～21 日 熊野市～南牟婁郡紀宝町
各回とも参加希望者は事前に事務局（貝發）までお申し出ください．

年間活動反省会

2013 年 2 月 24 日 松阪市日野町カリヨンプラザ 10 時集合

入会申し込み

〒515 - 0087 三重県松阪市萌木町 7 - 4
貝發憲治（事務局）
Tel (Fax) 0598 - 29 - 6427
mail : kumo@mctv.ne.jp
会費 年 2000 円

中部蜘蛛懇談会（代表：緒方清人）
会報「蜘蛛」を年 1 回，「まどい」を年 3 回発

行．採集会を年2〜4回．総会・研究会を年1回実施．

蜘蛛 (KUMO) 44号 (2011.10.20 発行)

貞元己良：再び，長野へ

徳本 洋：：まどい期のジョロウグモの生態

須賀瑛文：ハラクロコモリグモ水に潜る

須賀瑛文：岐阜市「長良川ふれあいの森」のクモ

須賀瑛文：岐阜県でコケオニグモの分布を確認

緒方清人：知多郡南知多町篠喬のクモ類と生物

緒方清人：愛知県内におけるムシバミコガネグモの記録

緒方清人：多治見市東町セラミックパーク

MINOのクモ類

緒方清人：愛知県産クモ類目録追加種

緒方清人：愛知県内でのキシノウエトタテグモの新産地

杉山時雄：豊田市で観察したRDB種

益田和昌：愛知県豊田市王滝町の倍足類

総会・研究会1 採集観察会等報告

2010年度総会・研究会報告

総会及び研究会に思う(柴田良成)

2010年度中部蜘蛛談話会&三重クモ談話会合同一泊観察会報告

2010年度採集観察会報告

第1回 5月30日愛知県犬山市今井「喜八洞周辺」

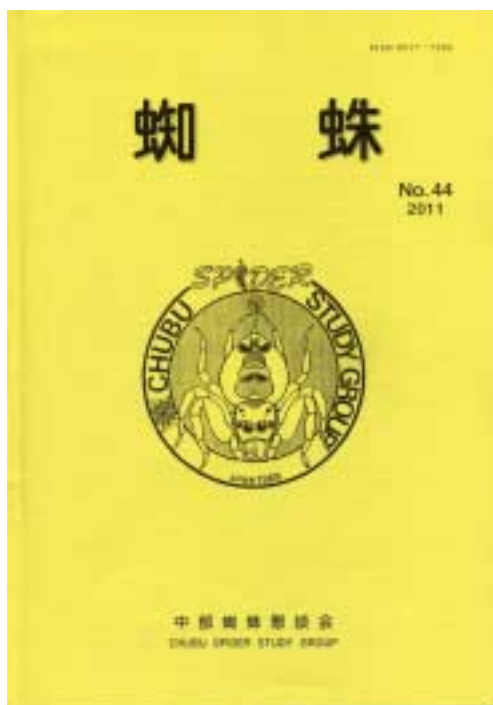
第2回 6月27日愛知県豊田市岩倉「トヨタの森」

第3回 9月5日名古屋市昭和区八事「八事更正寺境内」

第4回 10月3日春日井市大窪「庄内川右岸川原・荒子公園横」

採集観察会

6月10日(日)名古屋市西区庄内緑地 担当



村上勝

7月27日(金)〜29日(日)4会合同合宿 岐阜県飛騨地方

8月12日(日)名古屋市八事興正寺 担当
筒井明子・柴田良成

9月2日 or 9日(日)名鉄犬山公園駅から犬山城付近まで 担当須賀瑛文

10月 場所日時は未定 担当柴田良成

総会・研究会は2013年2月11日(休)を予定．

入会申し込み他

全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10-6

緒方清人(代表)

Tel 0566-83-4474

E-mail:neon_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒451-0066 名古屋市西区児玉 1-8-24

柴田良成（会計）

Tel 052-522-1920

会費

正会員 年 3000 円（高校生以下 1000 円）

準会員 「まどい」のみ 1000 円

東京蜘蛛談話会（会長：新海栄一）

会報「KISHIDAIA」を年 2 回、「談話会通信」
を年 3 回発行．採集会年 4 回・合宿年 1 回・
総会例会などを年 2 回実施．

今年度の採集会は、小田原市いこいの森わん
ぱくランドで行います

7 月 8 日（日） 10 月 14 日（日）

2 月 10 日（日）

小田原駅西口出たところのバス停 10 時集合

世話人：池田博明

連絡先：池田携帯 090-9670-1525

合宿は 7 月 27 日（金）～29 日（日）4 会合
同合宿岐阜県飛騨地方にて 担当 初芝伸吾

例会は、11 月下旬か 12 月上旬に東京環境工
科専門学校で実施．

KISHIDAIA 100 号（2012.5.31 発行）

新海栄一：KISHIDAIA100 号に感謝を込めて

小澤實樹：KISHIDAIA 創刊 100 号表紙に寄せ
て蜘蛛曼荼羅を思う

KISHIDAIA 創刊 100 号記念文

南部敏明：蜘蛛と私

藤澤庸助：私の入会 14 年間の足跡 100 号発
行記念にそえて

萩野康則：高嶺の花の KISHIDAIA

笹岡文雄：そして 100 号、されど 100 号



谷川明男：100 号記念，雑感

石川奈美江：キシダイア 100 号発刊によせて

東京蜘蛛談話会 2012 年度

4 月総会例会時の懇親会

中島はる：蜘蛛と音楽第三章・第四章(全四章)

谷川明男：大津波とイソコモリグモ

佐藤由美子・西村知良・安倍弘：餌種と餌サイ
ズに関するアオオビハエトリの捕食選好性

西野真由子：スズミグモの越冬

貞元己良：師弟の絆，いま再び。～もてぎ編

張替智行：ワクトツキジグモの飼育報告

張替智行：飼育下におけるワクトツキジグモの
網の記録

本多佳子：顕微鏡下で観察したクサグモ幼体の
初回脱皮

はまぐちゆうだい：水元公園のたのしいクモた
ち

吉田嗣郎：ムツトゲイセキグモ主に多産地での
観察・生態・蛾の同定・フェロモン

池田博明：ボルネオにカラオビハエトリを求め
て

入江照雄：熊本県から得られたクロナンキング
モの雌雄モザイクについて

谷川明男・新海明：日本でのイソコモリグモの
分布

DRAGLINES

藤澤庸助：ミヤマシボグモモドキの雄の奇妙な

しぐさ

中澤均:八王子市内でワクトツキジグモを発見

山本一幸:オオヒメグモの網に居たアカイソウ

ロウグモ

池田博明:こどもクモ博士という試み

池田博明:母グモはもっとも新しい卵のうのそ
ばにいる

浅間茂:コケオニグモと紫外線

入江照雄:熊本県産クモ類目録の追加

笹岡文雄:伊豆諸島・式根島における地中性ク
モ類及びその他のクモ

須黒達巳:長崎県壱岐島のクモ

Kishidaia 1号~100号総目次

入会申し込み

〒186-0002 国立市東3-11-18-201

(有)エコシス

初芝伸吾 (事務局)

Tel 042-501-2651

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費 年3800円(学生 2000円)

東京クモゼミ

毎月1回,第1土曜日に千葉縣市川市の加藤
宅で開催.会費などなく誰でも参加できる.

連絡先 新海 明 042-679-3728

または,加藤輝代子 047-373-3344

関西クモゼミ

会費などなく誰でも参加できる.

連絡先 吉田 真 077-561-2660

メーリングリスト「クモネット」

会費などなく誰でも参加できる.入会の申し込み
は谷川明男まで e-mail で.

dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

言いたい!聞きたい!



ハエトリグモの論文再読(9)

タイプ標本の再記載

池田博明

ボルネオ島のハエトリの記載

2012年8月にボルネオ島を旅した.神奈川県高等学校理科部会生物研修委員会の海外研修に参加したのである.私の目的は,アメリカのハエトリグモ分類学者,ペッカム夫妻の「ボルネオのハエトリ」(Peckham & Peckham 1907)に出ているクモを見つけることであった.この大論文には42種が新種記載されているが一枚も図が無い.いまでは図の無い記載論文は考えられないが,以前は分類学者が種を同定するには,タイプ標本を見れば一目瞭然だから,記載では図が不可欠のものとは考えられなかったのである.じっさいのところ,ペッカムの記載した種はハーバード大学の比較博物館に所蔵されていて,タイプ標本を見るのは決して不可能ではない.例えば,アリグモ属 *Myrmarachne* の2種(*M. shelfordii* と *M. borneensis*) は山崎健史氏によって最近,再記載されている(Yamasaki 2010).42種のうち15種は,ブルシンスキーやザブカ,ワンレスといった研究者によって検討・再記載されて,分かるようになった.けれども,残る27種は認知されていないし,当然ながら所属なども検討されていない状態である.ペッカムの記載した種がサラワク州に偏っているのはサラ

ワク博物館のキュレーター、シェルフォードが収集した標本だったからである。

1907年当時のボルネオ島は現在とはまったく文明の異なる島であった。日本の約2倍の面積をもつボルネオ島のハエトリグモ相は42種どころではないだろう。つまり、現在のボルネオでいくらクモを採取したところで、ペッカムの記載した種のタイプ標本を検討することなく同定することはできないということである。オランウータンの研究者ビルゲ・ガルディカスは彼女がボルネオ島に入った1971年当時を「道路も、電気も、定期的な郵便や雑誌も、電話もテレビも、ホテルも河川の水バスも、国立公園も存在しなかった」「ボルネオの大半は孤立し、人々は伝統的な生活を営んでいた」と記している。それだけに野生豊かな島だっただろうから、類似した種もいて当然なのだ。

ハエトリグモの再記載に取り組む

ハエトリグモの再記載に取り組んだ学者は少なくない。例えば、シモンが記載した南米の種の多くをアルゼンチンのブエノス・アイレスの自然博物館のマリア・エレナ・ガリアーノ(1928–2000)が再記載した。彼女の最初の論文は29歳。彼女がシモンの南米の標本を再記載したのは1963年だから彼女は35歳、200ページ近くもある大論文はおそらく彼女の学位論文だろう。その後、彼女は72歳まで南米のハエトリグモの分類を一手に手がけることとなった。ガリアーノの論文の多くはブエノス・アイレスの博物館紀要に発表されており、この紀要論文は日本では入手できないのだった(現在、図だけはプルシンスキーのネット上の「世界のハエトリ」で参照できる)。私は2001年に南米のエクアドルの生物研修旅行

に参加する予定で、採集したハエトリグモを文通のあるガリアーノに同定を依頼するつもりでいた。ところが、彼女は2000年10月30日に交通事故で突然亡くなってしまったのである。直前に彼女は心よく私が必要とする論文の郵送を申し出てくれていたのだが、あまりに膨大な量なので遠慮しているうちに、急死してしまったのである。人間、明日はなにが起るか分からないものなのだ。

タイプ標本の再記載を主な仕事として積極的に取り組んだのは、なんとといってもポーランドのジャージー・ブルシンスキーである。彼は1966年ごろからポーランドの動物学雑誌にハエトリグモのタイプ標本の再記載の論文を発表。1971年には世界の主要な博物館に所蔵されているタイプ標本のカタログを発表した。ボネとレーヴァーのカタログを参考に種名で整理したカタログだが、パソコンやインターネットのない時代に大変な作業だったと思われる。1976年には260ページの「旧北区・新北区のハエトリグモの分類学及び地理学的研究」で第二学位を取得。第311図から第450図までの140枚がブルシンスキーの原図であった(第1図から第310図は他の文献からの引用図である)。1984年にあまり知られていない種を中心にした170図以上のアトラスを刊行、1987年にはその第2部を出した。そして1990年にまとめた366ページのカタログが現在のネット上の2007年版の「世界のハエトリグモのモノグラフ Monograph of the Salticidae (Araneae) of the World」の原型となっている。

プルシンスキーの力わざのお蔭で闇のなかで手探りするような状態だったハエトリグモの分類に光明が指したのである。プルシンスキーのカタログはウェイン・マディソンの協力で

ネット上にオープンにされ、いまや世界じゅうの人々に参照されている。

しかし、プルシンスキーのモノグラフは生殖器の図が中心で全形図が出ていない種が多い。私見では再記載には全形図を必ず付すべきである。デジタル・カメラで撮影した全形図でもよい場合もある。再記載は同定のために真に役立つ資料でなければ意味がないからである。

ベッカムの記載した種の正体を考察する

今回 2012 年に観察したハエトリで同定できたのは 15 種だけだが、そのうち「ボルネオのハエトリ」に記載されたと推察可能な候補種は 3 種だけだった。ただし、前述したように確実な同定にはタイプ標本と見比べる必要があると思っている。

ベッカムはシモンの分類にしたがって後牙堤歯数で大きく多歯・裂歯・単歯に分けてから記述しているが、今回の 3 種はすべて単歯だった。この後牙堤歯数によるハエトリグモの大分類は人為分類として批判を受けた時期もあったが、最近はある程度系統を反映した分類だったと再評価されている (Maddison & Hedin 2003)。

ノーマ・ラシッドとリーはマレーシアのクモのチェックリストを公表しているが、このリストはボルネオ島を無視していないにもかかわらず、ベッカムの論文の種をチェックしていない (Norma-Rashid & Li 2009)。正体不明種が多いため、これもひとつの見識である。以下、和名は仮称である。

(1) 大形サイズのハエトリ (10mm 以上)。
デカハエトリ (仮称) *Hyllus pulcherrimus* Peckham & Peckham 1907. 11mm male and 14.5mm female. デカハエトリ属 (仮称) *Hyllus* はマリアウ・ベイシン地域のガジ



ヤ河 (ガジャは象を意味する) の河川敷で 1 雄成体が発見された。既知の種の触肢で探索すると、*Hyllus lacertosus* (C. L. KOCH 1846) と同定できる。プルシンスキーが再記載したのはジャワ島の標本である。ボルネオ産は RTA の先端の歯型が明瞭な点でやや異なる。*H. lacertosus* はベトナムからジャワ島、スマトラ島、ピンタン島から報告されている。コッホは *Plexippus* 属として記載し、その後、トレルは 1892 年の『マレーシアからパプア・ニューギニアの研究』にボルネオ産の *Plexippus lacertosus borneensis* を報告している。トレルの記載はラテン語で、しかも図が無いが、コッホの記載した種とやや違いがあるため亜種と判断したと思われる。ところで、ベッカム夫妻が新種とした *Hyllus pulcherrimus* の記載を読むと、今回の発見個体に当てはまる点が多い。つまり、コッホの記載した種と同種らしいということである。ベッカムの記載でもっとも重要な点は腹部背面が鮮やかなメタリックな緑色であるという点である。実際には緑色というより金色だが、金色はメタリック・グリーンと表現されることが多い。

(2) 中形サイズ (5mm 以上, 10mm 未満) のハエトリ。ナミダアトハエトリ (仮称)



Bathippus shelfordii Peckham & Peckham 1907 . 8mm male described by Zabka . ナミダアトハエトリグモ属 (仮称) *Bathippus* の一種をマリアウ・ベイシン地域のガジャ河の河川敷で観察した . 体長約 8mm のメスであった . ペッカムがこの学名で記載したのはオスだが , メスの斑紋は基本的にはオスと同様である . ザブカがオスと同時に記載したメスと外雌器の構造が一致した . この個体は腹背の黒点が少し大きくつながっている箇所がある点が , ザブカの記載したメス個体とやや異なるが , 斑紋の個体変異と思われる . マレーシアのチェックリストには本種は載っておらず , ナミダアトハエトリグモ属は別の 2 種が挙げられている (Norma-Rashid & Li 2009) が , オスだけが記載されている *B . pahang* Zhang , Song & Li 2003 とは本種は異なる . オスだけが記載されている *B . schalleri* Simon 1902 には図が無い .

Bathippus serenus Peckham & Peckham 1907 . 6.7mm female described by Zabka . 本種は *Bathippus shelfordii* のメスであった .

(3) 中形サイズのアトリ . ワカバアトリ (仮称) *Epeus mirus* (Peckham & Peckham 1907) . 7mm female from Sarawak described by Proszynski . ワカバ



アトリグモ属 (仮称) *Epeus* はマリアウ・ベイシン地域とタンブナン村の両方で観察された . 写真は葉裏で卵をガードしているメスである . 卵に糸をかけずにガードしている様子はたいへん珍しい生態である . 本種はトレルが 1887 年に *Viciria* 属としてメスを記載した *Epeus alboguttatus* (Thorell 1887) と同定できた . ペッカムは *mirus* を新属の *Taupoa* 属として記載したが , 特異な外雌器からはトレルの記載した種と同種の可能性がある . マレーシアのチェックリストには , ワカバアトリグモ属は別の 2 種 , *E . flavobilineatus* (Doleschall 1859) と , *E . glorius* Zabka 1985 が 載っている .

謝辞

トレル及びノーマ・ラシッドの文献は谷川明男博士に見せていただきました . 記して感謝します .

参考文献

- Galiano M. E. 1963. Las especies americanas de arañas de la familia Salticidae, descritas por Eugene Simon. Redescripciones basadas en los ejemplares típicos. Physis, Buenos Aires, 23(66): 273-470. [見ていない]
- Norma-Rashid, Y. & Li, D. 2009. A

checklist of spiders (Arachnida: Araneae) from Peninsular Malaysia inclusive of twenty new records. Raffles Bul. Zool., 57:305-322.

Maddison, W. P. & M. C. Hedin 2003. Jumping spider phylogeny. Invertebrate Systematics, 17, 529-549.

Peckham, G. W. and E. G. Peckham. 1907. The Attidae of Borneo. Transactions of the Wisconsin Academy of Sciences, Arts, and Letters 15: 603-653.

Proszynski J. 1984. Atlas rysunkow diagnostycznych mniej znanych Salticidae. Zeszyty Naukowe WSRP, Siedlce, f 1-177.

Proszynski J. 1987. Atlas rysunkow diagnostycznych mniej znanych Salticidae. Zeszyty Naukowe WSRP, Siedlce, 1-172, f 1-172 (pp=ff).

Proszynski J. 1990. Catalogue of Salticidae (Araneae) a synthesis of quotations in the world literature since 1940 with basic taxonomic data since 1758. WSRP, Siedlce, 366 pp.

Proszynski, J. 2007. Monograph of the Salticidae of the World. On Internet URL:<http://salticidae.org/salticid/main.htm>

Thorell, T. 1892. Studi sui Ragni Malesi e Papuani. IV, 2. Ann. Mus. civ. stor. nat. Genova, 31: 1-490.

Yamasaki, T., 2010. Redescription of two Bornean species of the genus Myrmarachne (Araneae: Salticidae). Acta arachnologica, 59(2):63-66.

ガルディカス, 1995 (訳書 1999). オランウータンと共に.新曜社.

池田勇介君を偲ぶ

谷川明男

2012年4月29日,池田勇介君が急逝されました.あまりに突然の,あまりに早すぎる旅立ちでした.彼は大阪府のクモ相の研究をはじめ,いろいろな研究でたくさんの賞を獲得していますが,ここでは,彼にまつわる私の個人的な思い出について書かせていただきたいと思います.

私が池田勇介君と初めて会ったのは2001年12月の関西クモ研究会例会の時でした.それまでに,関西クモ研究会の方々からは,とても小さいのにクモに関して深い知識を持っている子がいるという話を聞いていただけで,直接会ったことはありませんでした.まだそのころは小学校に入ったばかりのころではなかったかと思いますが,その日の彼はスパイダーマンの恰好をしていました(写真1).それが勇



写真1.初めて出会ったころの池田勇介君

介君と私との出会いでした。

私が彼から強烈な印象を受けたのは何といっても 2005 年 7 月に佐賀県で行われた東京蜘蛛談話会の夏季合宿の時でした(写真 2)。夜の観察の後、いつものごとく大部屋に集合してのクモ話になったとき、私のところへやって来た勇介君は、「質問があります。篩板類は単系統群ですか?」と聞いてきたのです。これにはとても驚きました。天才少年とは言われていても、小さな子供によくあるような、何かを全部覚えているというタイプ、日本中の川の名前が言えるとか、駅の名前を全部覚えているとか、そんな類で、彼もたくさんのクモの同定ができるという程度のものだとたかをくくっていたのです。しかし、池田君は単にクモの名前を知っているというだけではありませんでした。クモのことを勉強するのがほんとうに楽しくて楽しくてたまらず、いろいろな本を読み、いろいろな方と話し、多岐にわたる勉強をしていたのです。篩板類の単系統性などは、クモの系統学者、分類学者の議論の対象となっている事象です。単系統というような専門用語が使われたことに驚いたばかりでなく、当時の日本のクモ界の状況をも把握している様子にとっても驚かされました。この件で私は、勇介君に対しては、子供相手の対応をするのはやめ、一人前の



写真 2. 篩板類の単系統性についての話をしたころの池田勇介君

クモ屋仲間としての対応をすることにしたのです。このときも、その時点での私なりの考えと展望について、大人のクモ仲間話すのと同じようにお話ししました。

次のエピソードは、2008 年 7 月、やはり東京蜘蛛談話会の夏合宿で香川県を訪れた時です。それまでに池田君は近畿地方でヌノカケグモ科のクモに似ている変わったクモを発見していました。残念ながらメスだけの発見で、それ以上研究が進まずにいたのですが、そのクモのオスは熊田さんによって発見され、小野さんがその標本に基づいてハラビロササヒメグモとして発表されました。そのことを私はちゃんとフォローしておらず、私の頭の中で両者は一致していませんでした。合宿の夜のクモ合わせの時、勇介君がハラビロササヒメグモと報告したときに、私は「ん?何か名前を間違えているんじゃないかな?」と頓珍漢な受け答えをしてしまいました。勇介君は先のような経緯を説明してくれ、私はやっと状況を把握したのでした。彼は時々刻々と発表されるクモ関係の論文をきちんとフォローしていたのです。中学生の男の子がです。このエピソードは東京蜘蛛談話会の通信に連載されていた漫画ムツトゲ日誌にも描かれています。

そして私と雄介君との最初で最後の共著論文となったのが、同じ 2008 年(写真 3)に発表したシロゴミグモのオスの記載論文でした。シロゴミグモは分布範囲こそ広いのですが、発見される個体数は少なく、オスは不明でした。一方で、種名不明のゴミグモ属のオスの標本も各地から発見されており、雄介君も大阪で採集していました。雄介君からこのオスについて聞かれたころ、ちょうど手に入った新鮮な標本を用いて行った DNA バーコーディングによって、このオスがシロゴミグモのオスであることが



写真3. 共著で論文発表をしたころの池田勇介君(2008年12月)

分かったのです。しかし、オスの記載論文の準備中、他種のオスとの見分け方を整理してみると、このオスは、南西諸島に生息しているミツカドゴミグモのオスと見分けがつかないのです。勇介君からの質問の返答で、このクモはシロゴミグモのオスであること、ミツカドゴミグモのオスと見分けがつかないことなどを知らせて、勇介君にも両者の違いを探してもらいました。そして彼はこの2種のオスはパラキンビウム先の形で見分けることができることを発見したのです。

勇介君、これからも一緒にコガネグモ科の研究をしていきたかったのに……コガネグモ科のリビジョンで学位をとるんだって言ってたじゃないですか……あまりに短い人生だったけれど、とても充実した人生でしたね。こんな短い年月にしっかりと自分の足跡を残したというのは、とてもすごいことだと思います。勇介君、天国についたら、お釈迦様が蓮池から糸を垂らしたというあのクモが何グモか、同定しておいてね。きっと円網種じゃないかと思えます。私もじきにそっちへ行きますから、そしたらそのクモの系統について議論しましょう。



採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、参考記録として掲載を継続させていただきます。】

イブキヤチグモ 岐阜県下呂市濁河川本流源
流草木谷右岸 1920m alt. 2011年7月15日
~17日 4 芳賀馨採集(ピットフォール
トラップ) 松田まゆみ同定

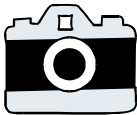
ホッポウフクログモ 採集地、採集日、採集者、
同定者は同上。1

ツシマトリノフンダマシ 神奈川県横須賀市
光の丘水辺公園の北東尾根 2008年7月12
日 1 成幼不明 別府史朗/信子写真撮影
池田博明写真で同定確認

キクメハシリグモ 神奈川県大和市上和田野
島の森 2012年5月12日 性別成幼不明 1
個体 トコロジストの会弘中健一発見写真撮影
谷川明男写真で同定確認。



キクメハシリグモ弘中健一氏撮影
(新海 明・谷川明男集約)



ギャラリー



「ヨダンハエトリのオス」

スパイダーパニックというB級SF映画に、巨大になったハエトリがバイクで逃げる人にむかって飛び掛るというシーンがありました。本物は小さいのでかわいいですが、これがライオンやトラのようなサイズで、こうして注視されていつ飛び掛られるかわからないような状況におかれたときには、相当の恐怖感ではないでしょうか。

撮影・コメント：谷川明男

遊絲に奮ってご投稿ください。採集旅行記、小観察、採集記録、とっておきの写真などクモやクモにまつわる話などなんでもけっこうです。

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603
新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

発行は、年2回(5月、11月)の予定。締切は発行月の前月末日です。

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

入退会は

庶務幹事

中田兼介

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35 京都女子大学

E-mail : nakatake@kyoju.ac.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

加藤輝代子

〒350-0043 千葉県市川市国府台5-26-16

メゾン・トル 206

E-mail : kiyoko_kato@kce.ac.jp

年会費 正会員 7000円(学生は5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745 日本蜘蛛学会

遊絲 第30号

2012年5月28日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 宮下 直
